

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年7月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101474		
法人名	株式会社 ハートピア		
事業所名	ケアホーム 日なた家	ユニット名	ばら ユニット
所在地	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1739		
自己評価作成日	平成28年2月19日	評価結果 市町村受理日	平成28年7月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870101474-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年3月14日	評価機関 決 済 日	平成28年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「明るく元気いっぱいスマイル日なた家」をモットーに、入居者も職員も元気でいられる雰囲気作りに努めています。施設内に一步入れば、中庭のある開放的な空間と日差しが入り込んだ明るい窓辺があり、入居者と職員が共に笑い合い心も体も健康的な気持ちになることができます。日頃のケアについては、入居者に対して人生の先輩である事を忘れないような言葉づかいをするように意識しています。また、ご家族に対しても何度も面会に来ていただけるような気持ちで接しています。見学にいらっしゃる方のほとんどが「認知症の方が入っているように感じないですね」と話して下さることが職員の励みとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は水戸市街の広大な敷地に、3ユニットが平屋で建てられており、玄関は広く正面ホールから中庭が見渡せ、開放感のある造りになっている。
利用者は3ユニットを自由に往来して趣味活動や作業活動、合同でレクリエーションをするなど、ゆったりとした生活を送っている。
家族等の面会が多く、来訪した際は職員は声かけをして近況報告をしながら再度面会して頂けるように努めている。
各ユニットの居間兼食堂の傍に小上がりの和室が設置されており、利用者同士が談笑したり、洗濯物をたたんだりして穏やかに暮らしている。
職員同士のコミュニケーションが図られるとともに、職員が元気で明るく笑顔で接しながら穏やかにその人らしい生活が出来るよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものにする」と共に、利用者が地域社会に一員として生活することを支えます」という内容を倫理綱領に掲げ、職員は明るく優しく支援に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、小学生のボランティア活動や中学生の職場体験学習を常時受け入れる体制を整え、定期的に地域ボランティアや活動や避難訓練参加を地域住民に呼びかけている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアを受け入れ、利用者との交流を通じて認知症の理解に取り組んでいる。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度家族等の代表や地域の代表、有識者、市職員、施設職員で開催している。会議録を作成し、職員で共有すると共に出了課題を職員で話し合い、サービスの質の向上に生かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員、高齢福祉課、生活福祉課など利用者について情報を共有し、相談している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、入居の際に利用者、またはその家族に対して十分な説明をして了解をいただき、また毎年行っている家族会でも了解を得ている。職員には全体会議で身体拘束についての勉強会を行い、防止に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で勉強会を行い、防止に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の必要があると認められた場合、利用者、家族、医師などと話し合いを持ち協力している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際十分な説明を行い、場合によっては同意書にサインをいただいている。また改定等の際は、個別または家族会などで説明を行なっている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の締結の際に同様に説明を行なう事で理解を得ている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等にて意見、提案等その都度機会を設け、管理者会議にてまとめ反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり活用している。管理者が面談することになっており、職員各々のやりがいや向上心を聞く機会がある。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の段階に応じて研修の機会を提供している。また研修受講報告書を作成し職員で内容を回覧し内容を共有している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス協議会の会員になり定期的に交流している。また、グループホームの計画作成担当者会議が定期的にある。その中で、委員会や係りが研修にて定期的に深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人や家族等の訪問を受け、ホームの内容を十分理解していただいてからサービスの利用を開始している。 利用者が利用開始後落ち着かない状態になった場合、家族等の協力を得ながら職員が常に寄り添い支援している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会時に家族等と初期段階は特に話し合い、近況報告をし相談に応じている。施設側から相談することもあり、一緒に歩んでいく姿勢で臨んでいる。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族等と初期段階は特に話し合い、連絡を多くする事で「その時」の支援に努めている。またそれらは活動日誌等に記録している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、炊事等生活全般を一緒に行なうことで自然となじみの関係が築けている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等面会時には利用者と家族と一緒に話をする雰囲気を作り、さりげない会話の中から家族の置かれている状況や状態を把握している。また面会が少ない方や難しい方に対しては家族通信や電話で情報の共有、把握に努めている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等にぜひ近隣の方や友人にも面会に来ていただけるようお伝えする。また、以前にいたケアハウスの行事に参加し、ケアハウス時代の友人との繋がりも続いている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気質や性格などで利用者との関わりが困難な場合においても職員が間に入ることで円滑な人間関係が築かれるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話等連絡し、ご家族の状況等確認している。新しい施設で生活している場合は面会に足を運んでいる。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	把握が困難な場合においても様子観察などで何を望んでいるかケース会議等で検討し支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握が困難な場合においても様子観察などで何を望んでいるかケース会議等で検討し支援している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の毎日は活動日誌に記録され細かな変化にも対応できている。把握している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を主眼においてケース会議にて話し合い介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は活動日誌に記録していき、それらを活用しながらケース会議等にて反映し介護計画に役立てている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が入院してしまい、ご家族が遠縁、または遠距離で、入院の面会頻度が少ないまたは難しいなどで洗濯物がどうしても出来ない場合は状況によって施設で洗濯を行っている。「食事を部屋で食べたい」「お粥が食べたい」等の要望に個別に対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くには東部公園、東部図書館がある。また車で10分程度で千波湖があり偕楽園、護国神社等地域資源は豊富で恵まれている。それらを散歩、ドライブ等にて利用している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族等話し合い近隣以外のかかりつけ医を希望する場合には家族等の協力を得ながら受診すると共に受診結果を共有している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2度の訪問看護がある。その都度報告、相談していき、利用者にとって最適な医療の提供に努めている。また夜間、緊急時においては、電話連絡にて、指示を受けている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の通院時等にて主治医と利用者の情報の共有を行い急な入院に対しても対応できるように努めている。また入院後も担当職員は定期的な面会を行い情報の収集、交換と病院関係者とは密接に連絡している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の重度化や終末期に関する考え方を本人、家族等に十分に説明し同意していただければ同意書にサインしてもらっている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化しており職員全員が対応できるようにしている。応急手当などは研修で参加した職員が報告書を作成し回覧することで情報の共有をはかっている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は基準に従い、管轄下の消防署や企業とも連携し行っている。また地域住民にも避難訓練参加を呼びかけている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者は人生の先輩である事を認識し、いかなる状態であっても利用者を尊重した言葉掛けを行なっている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格や状態によって思いや希望を表す事ができなくても、日ごろの様子を観察し自己決定できるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や掃除など本人が希望されない時は無理に行なわず、またの機会にお誘いしている。入居者様の希望で3度の食事を居室に提供しているケースもあり、個別に対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣、着脱において介助を要し、また自己決定が難しい利用者に関しても、健康であった頃の身だしなみを参考にしながら服の選択をしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備、後片付けを行なう事でレクリエーションとなり、利用者の楽しみになっている。しかし男性など人生の経過に炊事等なじみがない場合は無理には誘わない。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれ食事量、水分量は観察していき、記録が必要と判断される場合は食事摂取表等に記録している。また場合によっては医師、看護師に連絡し相談している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態によって声かけ、一部介助、または全介助など口腔ケアをおこなっている。また必要に応じて歯科を受診し適切な指導または治療をおこなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表など活用し利用者の排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行なっている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は栄養士が高齢者向けに食事を考えている。またレクリエーションにリハビリ体操、ラジオ体操等行い適度な運動により快適な排泄の援助を行なっている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の好みに合わせ、入浴の予定を決めている。しかしある程度の決まりはある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は基本的に自室である。特に制限なく起きていただいている。しかし体調を考慮してあまりにも遅い場合には声を掛けて就寝を促している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から服薬の説明を受けたり、処方箋や通院記録に記録している内容を職員は確認し情報の共有を行なっている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好みや趣味を把握しレクリエーションに活用している。また利用者の中には計算が得意な入居者様がいるので、夕方に計算ドリルをしていただいている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でドライブに出掛けている。入居者によっては携帯電話を持っていただき、自由に1人で買い物、散歩に出かけている。また月に一度、職員と外出の機会を設け、普段いけない所へも出掛ける機会がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居開始時に本人が金銭を所持する際になくなった場合やその他金銭トラブル等の可能性を十分本人または家族等に説明し所持していただいている。または事務所に保管し使用できることを説明している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に電話したいと話がある場合に、電話をスタッフが掛けて差し上げる事で支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>レクリエーション等で季節にちなんだ貼り絵などを職員と利用者で行い掲示し楽しんでいる。またホール東側が全面ガラスなので、四季を自然とを感じる事ができる。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士廊下側に置いてある椅子に座り何気ない会話等楽しんでおられる。またテレビ等観賞したりするときにはいつも食事の際座っている椅子に座り氷川きよしなど演歌、歌謡曲等DVD鑑賞している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居開始時になるべく本人がなじみで使用していた家具や箸、湯のみなど用意していただけるよう支援している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリー構造となっており自宅では歩行が困難な利用者であっても廊下の手すりなど利用することによって自由に歩行できる。また、歩行が困難な場合であっても、歩行器や車椅子を利用する事で、できるかぎり残存能力を活かすようにしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない